（書式２）

＜事務局使用欄＞受付番号：　　－

「２０２２年度タイ・チュラーロンコーン大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学総合人間学部１年　舟田光里

①　学習成果

今回のプログラムに参加した理由の一つとして、タイの仏教への関心があった。日本の寺院とは趣を異にする豪華絢爛な寺院を見ることができ、夜の少し暑さの和らいだ大気に響き渡る読経の独特な響きを生で聴くことができてとてもうれしかった。国家宗教に対するタイの学生の生の声を聴くことができたのも大きな収穫であった。町中ではタンブン（徳を積む行為）をしている人や、袈裟を着た僧を見かけることが多く、やはり仏教国なだけあると感じる機会が多々あったのだが、宗教の多様性を感じる機会も多くあった。特にバンコク最大のヒンドゥー教寺院 Sri Maha Mariamman Temple に足を運んだ時には、その地域が様々な宗教が入り混じっている地域であるということもあり、モスク、仏教寺院、ヒンドゥー教寺院が近くに建てられていた。その近くには人種や宗教の異なる人々が集まって、店を開き、生活をしていることが分かった。滞在中には知ることができなかったが、彼らが社会的にどのような立場で、どのような暮らしをしているのか、どのようなルーツを持っているのか調べてみたいと思った。

②　タイでの経験

他文化との融合が印象的であった。デパートに入れば、日本料理や韓国料理のレストランがたくさんあり、様々な言語が目に入る。特に日本料理は人気なようで、宿舎の近くにある Suki Tii Noy(タイ人がすき焼き店だと思い込んでいるしゃぶしゃぶ屋)というお店は 24 時近くになってもアナウンス音が鳴りやまなかった。滞在中に現地の学生とともにその店に「すき焼き」を食べに行ったのだが、タイ人の味覚に合わせたアレンジがなされていてとても面白かった。放課後に訪れたサイアム博物館では、タイらしさとは何かについての展示が行われていたが、古くから伝わる習慣からなる文化、それと海外から入ってきた文化とが混ざり合ってできた文化、政策的に作り上げられてきた「文化」等、タイらしさというのは一面的なものではなく、多面的なものであることを実感した。

③　プログラム内容

このプログラムでは、講義と校外学習、自由時間が程よいバランスで設けられており、濃い２週間を送ることができたように思う。講義では日本人学生のみが参加するタイ語やタイの文化に関する授業に加えて、チュラ大の院生の授業にお邪魔して、日本人とタイ人の言語行動の違いに関する授業があった。また、チュラ大生との共同発表、アユタヤ研修、タイ舞踊体験があった。語学の授業では実用的な表現を学ぶことができ、教室の外で学んだ表現をすぐに使うことができたのが良かった。放課後に足を運んだ寺院やアユタヤ研修では、授業で学んだタイ人のコスモロジーや建造物の背景にある歴史を意識して建造物を見ることができた。共同発表に関しては現地の学生と日程調整をしたり、休みの合間を縫って準備をしたりしなければいけなかったが、自然と会話も増え、チュラ大生の優しさに触れ、深い仲を築くことができた。また、学部や学年の異なる日本人学生からの学びも多かった。タイに関する知見のみならず、タイとの比較を通じて日本に関する知見も広げることができた。

④　進路への影響について

まだ、専門は決まっていないものの、国際政治か人類学の方向へ進みたいと思っている。いずれにせよ文化や価値観の違う他者を理解することが重要となる学問であると思う。そして、今回の渡航は現地の方々とコミュニケーションをとる機会にあふれており、他者理解の経験を積む貴重な第一歩になったと思う。また進路とは関係がないかもしれないが、タイ語やタイの文化、政治、経済についてもっと詳しく、そして、バンコクという一地域にとどまらず山岳地域や沿岸地域にも焦点をあてて調べてみたいと感じた。